

## 福岡市における熱中症救急搬送と気象条件等との関連

環境科学課 松本 弘子・藤瀬 朋子・宇野 映介

大気環境学会九州支部第 19 回発表会

平成 25 年から平成 30 年の本市における熱中症救急搬送者の発生状況や気象条件について解析した。本市の熱中症搬送者の発生状況として、女性より男性の搬送者が多く、年齢階級別では、男性は 18～64 歳、女性は 65 歳以上の搬送割合が多かった。発生場所別では 0～17 歳では半数が教育機関、65 歳以上では約 6 割が住居で発生していた。熱中症発生と気象条件については、覚知時気温では 32℃の時に搬送者が最も多く、日最高気温が 31℃を超えると搬送者が急増する傾向が見られた。校区別の搬送者の分布については、昼間人口の多い東区、博多区、中央区で搬送者が 50 人以上の校区があり、他の行政区でも搬送者が多い校区が見られたことから、搬送者が多い校区と少ない校区との間に何らかの潜在的要因がある可能性が考えられた。